

農山漁村民泊(ホームステイ) 受け入れの手引き



体験型観光のトータルコーディネーター

有限
会社

アグリテック

体験教育旅行企画係

はじめに

いのちを育む場所「農山漁村」。人間にとって「食」は切っても切り離せない大切なもの。しかし近年そのいのちを育む現場である農山漁村が「他人事」となってしまっています。そんな中、教育現場では農山漁村の暮らしや生活の現場を知る機会ほとんどないのが現状です。

いま、修学旅行が地域の歴史や文化、自然、そして人との交流を通じた体験型に変わってきており、中でも農山漁村での体験が注目されています。とくに農林漁業家の生活を体験をするホームステイを希望する学校が多くなっています。多感な高校生の時期に、農山漁村での民泊体験を通し食や農業、漁業、林業、そしてそこで生活する人たちの生業の理解を通し、「他人事」だった農山漁村を「自分事」にしてもらうような取り組みとして交流人口から関係人口づくりにつなげ、地域のファンを増やしていく取り組みにつながっていかれると思います。

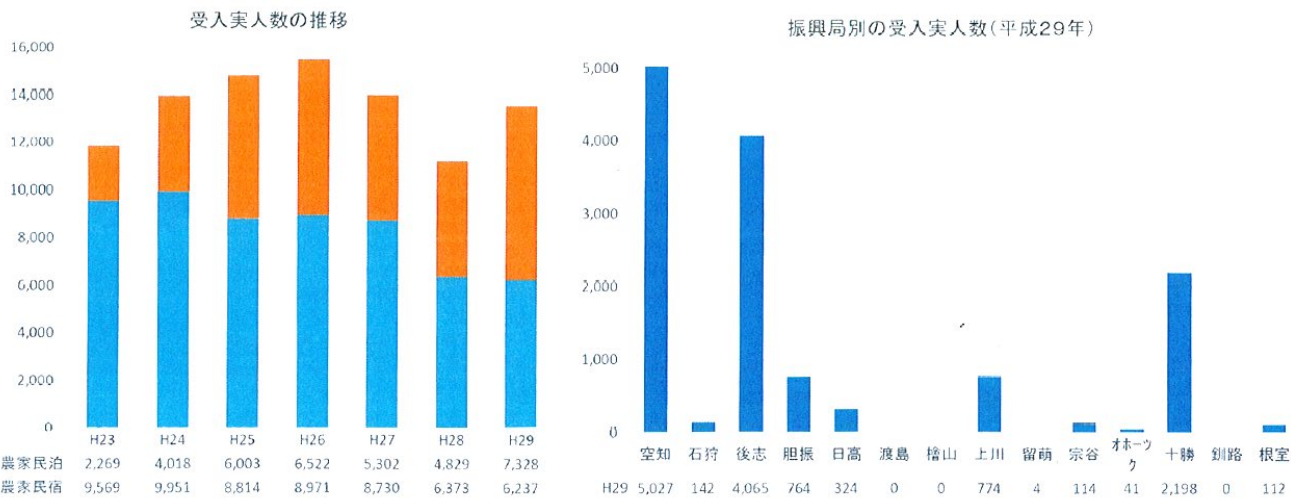
そして1000人、2000人受け入れた中からひとりでも第2のふるさととして、担い手や後継者、また移住や定住など、農山漁村の活性化につながっていかれると考えています。よろしくお願いします。

道内の修学旅行での農山漁村体験の動向

北海道内には恵まれた自然や歴史、文化、観光施設など、多くの学びの場があることから多くの修学旅行生が訪れています。とりわけ近年農山漁村での農林漁業体験を希望する学校も増えており1年間に約1万人の生徒が農村での体験活動をおこなっています。

中でも宿泊を伴う、民泊（ホームステイ）を希望する学校が多く、農山漁村での生活体験を通して地域について学ぶ場としてニーズが高まっていますが、受け入れのできる地域や受入先のキャパ以上に希望が多く、受け入れの多くを断っている現状です。

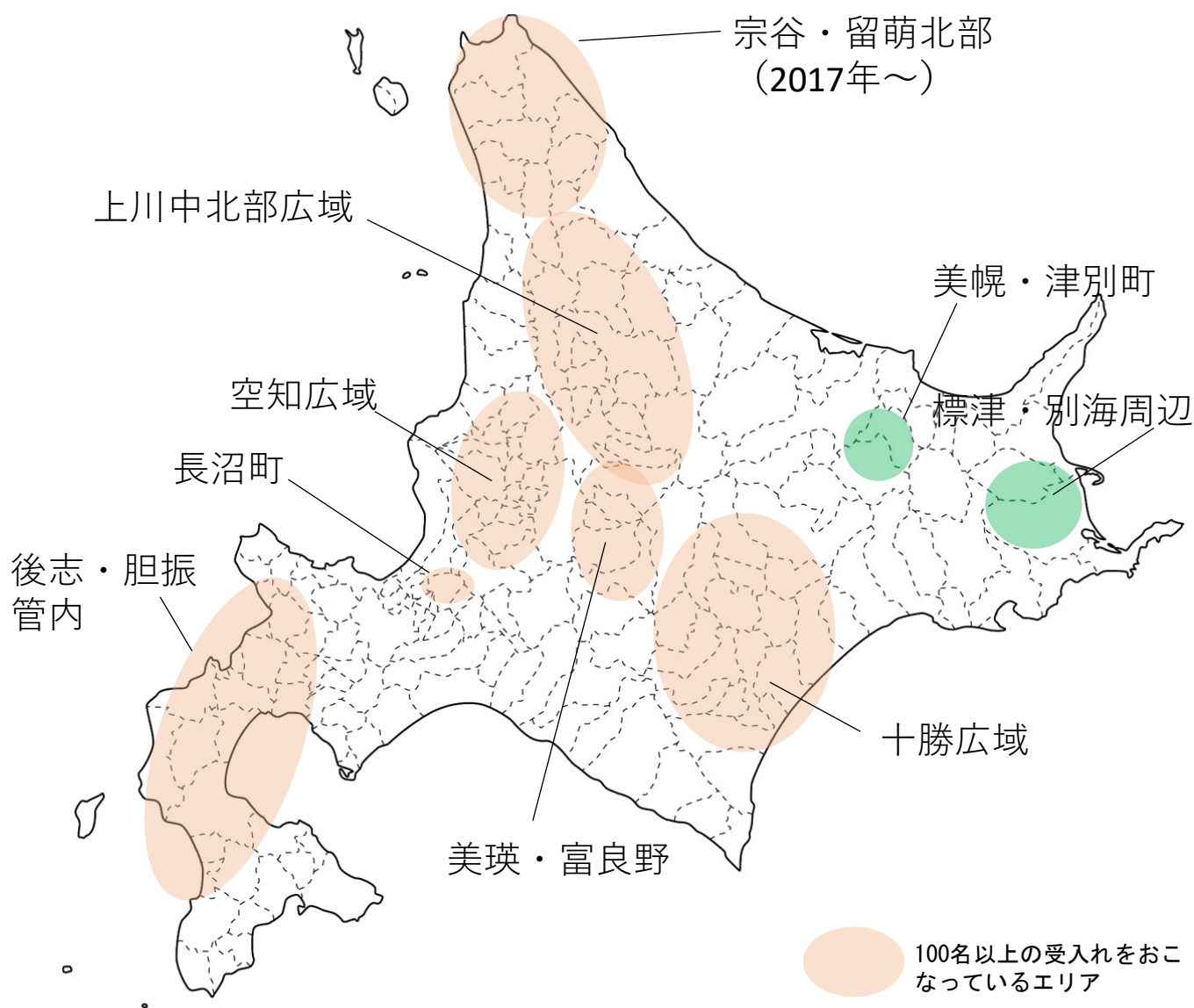
農家への宿泊を伴う農林漁業体験の受け入れ状況



【北海道農政部農村振興局農村設計課より】

主な受け入れ地域

教育旅行等で農業体験など産業体験の受け入れをおこなっている地域は多くありますが、宿泊を伴う農林漁業等の体験の受入れは協力ベースで受入れがされている地域が多く、常時受入のできている地域は限りがあるのが現状です。また、北海道を訪れる修学旅行生は都市部にある学校が多く、生徒数も平均**200名～300名**の学校が多く、その人数を一度に受け入れできるエリアは現在、空知や上川、長沼町をはじめ、十勝、後志・胆振地域が主におこなっており限定的になっています。



期待される受け入れの効果や役割

教育的効果

地域産業や食、自然、歴史、文化、社会（労働・過疎）の学習



学習意欲、自立心、思いやり

交 流

都市農山漁村交流、世代間交流、生産者消費者交流を通して



農山漁村地域の理解促進、絆、サポーター

経済的效果

一次産業の所得向上、地域経済、事後の継続購入など

効果

効果

効果

受け入れ



生徒の満足

期待

期待

移住・担い手への期待

- ・ 道内大学への進学
- ・ 季節就労
- ・ 地域内他産業への就職
- ・ 事業継承、関連産業に就職

受入の充実感

- ・ 都市部の若者とのふれあいによる刺激と感動、元気
- ・ 地域の産業、生活、自分の仕事の価値の気づき、再発見
- ・ 子どもたちの変化による達成感

【北海道農政部農村振興局農村設計課より】

<学校の期待>

- ◇学校では行えない学生たちの情操教育・マナー教育・地方文化教育・伝統教育への期待
- ◇農業・漁業・工業者など第一次産業の課題や環境などの問題意識を高めさせることができる。
- ◇民泊での交流や体験を通して、学生たちのコミュニケーション能力向上、人とのつながりの大切さが図れる。
- ◇将来や進路の選択肢拡大などへの期待。

子どもたちへの体験プログラムのねらい

農山漁村体験プログラムではこの北の大地の大自然に向き合い農業や漁業、林業等のおもに一次産業を生業でおこなっている農林漁業家さん等と、未来は育む子どもたちに交流・生活体験を通じ、仕事や自然、生活文化に直接触れてもらうことで、

- 生きていくことの喜び・厳しさ、自然と人間の共生の大切さを知ってもらう。
- 今まで気付かなかった自分を発見し、自分を見つめ直す機会を得てもらう。
- 北海道の大自然とその恵みに出会うことにより、あらたな感動・気付きを得てもらう。
- 先生はそこで生活する地元の人であり、土・水・空気・植物・動物など自然の中から「**ほんもの**」を感じてもらう。



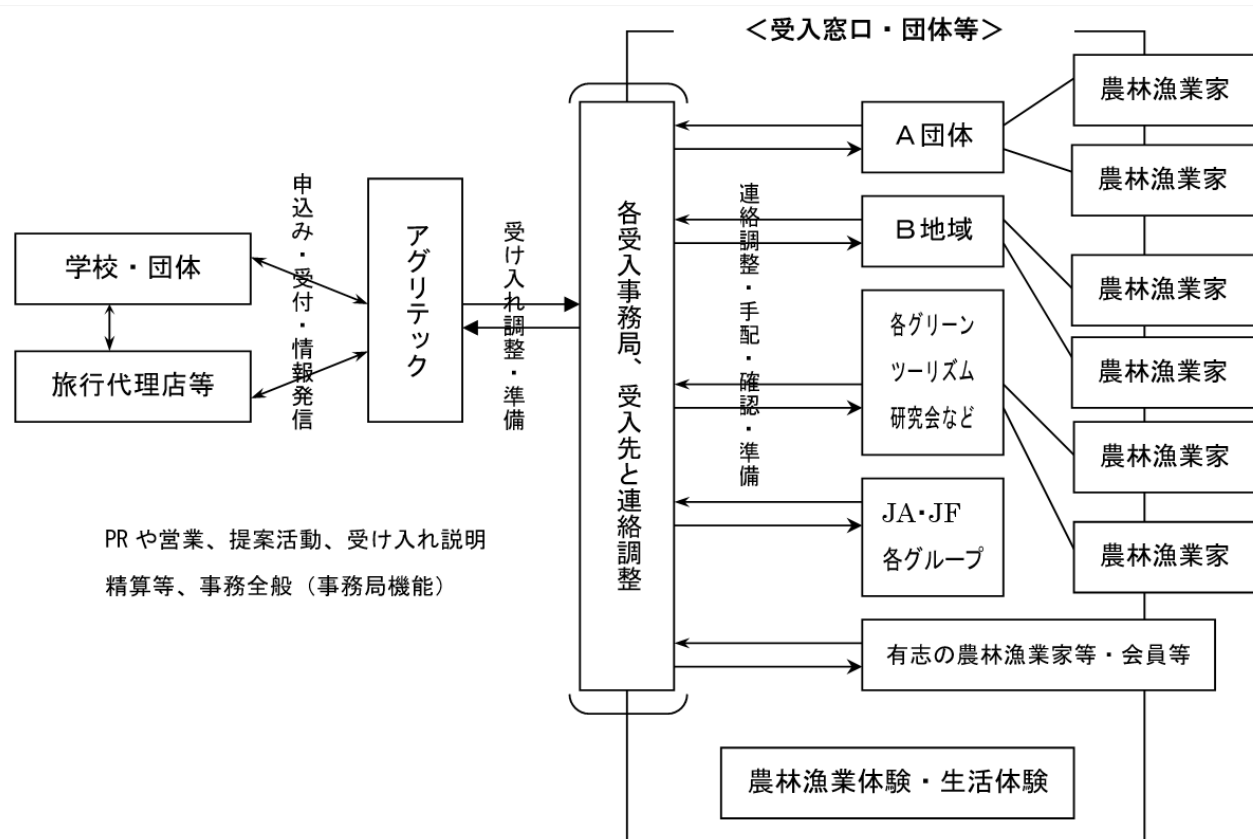
受け入れの仕組み

修学旅行の受け入れを円滑に進めていくため各市町村単位での受入組織・受け入れ担当者等と調整や、有志の受入家庭のみなさんと直接連絡調整をおこないながら、受け入れをおこないます。

協力受入家庭のみなさんとの調整や連絡等は、各担当者を通じてや、有志の方は直接おこないます。

学校、旅行会社とは「受け入れコーディネーター」として、当社アグリテックが窓口となり手配調整をおこなっています。

生徒と受入先のマッチングや、滞在中の巡回対応、またバスの行程表の調整など、学校と地域の要望や状況に合わせながら、当社で調整をおこないます。



学校と地域を結ぶコーディネートをしています

受け入れにあたって

北海道に修学旅行で来道する学校のほとんどが都市部の普通高校の学校です。大学進学のための勉強が中心のため、農林漁業に関する勉強とは無縁な授業がほとんどです。何か作業をさせなければと不安もありますが、畑や山、作業場に入ったり都会にない自然を見せてあげたり、家族団らんの食事やBBQ、お祭りや行事の参加など農村での生活や暮らしのそのひとつひとつが初めての体験であり、修学旅行の楽しい思い出のひとつとなっています。

17歳の多感な時期に自分の仕事や、自分が住んでいる地域の魅力を伝える場として、親戚の子どもが遊びに来たつもりで迎え入れてあげていただければと思います。

<受入方法>

- 受入は1家庭あたり1班ずつで、男女別で生徒3～4名が基本の班となります。
- 生徒はバスでやってきます。特定の集合場所にて受入先のみなさんにお集まりいただき、各家庭までご自身の車で送迎をします（旅程決まり次第集合場所や時間等は別途連絡）。また、集合の際、対面式・お別れ会を行う場合もあります。

<体験内容について>

- その日そのときの作業をいっしょにおこなうことを基本としています。日頃おこなっている作業や、収穫、畑の仕事、用具の手入れや片付け、そのすべてが体験です。自分の仕事の楽しさや苦労話、お年寄りとの対話、作業以外の農山漁村の生活体験など、お客様扱いではなく家族の一員として、または親戚の子どもが遊びに来た感覚で、ふだんの生活をいっしょにすることが最大のおもてなしとなります。

<食事について>

- カレーライスやシチュー、ジンギスカンやちゃんちゃん焼きなど、負担にならない範囲で、受入家庭のみなさんといっしょにおこなう共同調理を基本に、準備やお手伝い、片付けなども体験のひとつとなります。

<体験料のお支払いについて>

- 生徒を預かるの十分な金額ではありませんが、体験指導料のほか作業用品代、食材費等、受け入れに関わる経費としてお支払しします。（目安：1泊2食8000円～）。

受け入れ当日の流れ

当日の流れは以下ようになります。修学旅行のためバスで現地入りするため、受入先の方に集合場所までの送り迎えをお願いいたしております。集合場所などは、道の駅や公民館など広い駐車場のあるスペースで待ち合わせとなります。尚、集合場所や時間などの詳細は別途ご案内いたします。

集合場所へ出迎え



①バスが到着



②受け入れ先の方のお出迎え。



③受入先の車で一緒に各自移動



④各受入れ先にて生活体験



⑤体験後は解散式をして見送り

元の集合場所へ送迎

受け入れ前の準備

都市部の生徒たちは初めての環境での生活となります。日ごろ、使っているものでも危険が潜んでいる場合もあります。生徒たちが安心・安全に滞在できるように準備をしておきましょう。

●泊める部屋について

普段使っている部屋や、空いている部屋などで十分です。とくに模様替えなどもせず、必要に応じて家具などを少し移動する程度でかまいません。清掃も普段のようにおこない、とくに布団やまくら等については衛生管理に努めましょう。

●お風呂、トイレ

生徒等が使用する部屋のほか、やトイレ、浴室等など普段おこなっている掃除等で衛生的にしておきましょう。

●暖房や火気の注意喚起、避難経路

滞在中、ストーブや火気などを扱う際には、事前に作動状況などを確認し、生徒たちにも注意喚起しましょう。また、万が一、停電や火事など緊急の際の、連絡方法、避難経路なども確認しておきましょう。

●建物等

建物や設備について老朽化などしている場合、利用時にそれらが破損、故障する事によって思わぬ怪我や事故に繋がる恐れがあります。これらを防ぐため、日頃から使用する建物や設備の状態をよく把握し、不具合が見つかったら直ちに修繕・修理することを心がけましょう。

●体験用具等

作業をおこなう際に必要な道具などは作業内容によって各家庭で準備をお願いしております。道具などは破損していないか、機械が壊れていないかなど安全確認をしておきましょう。また、つなぎや長靴など作業内容に応じて準備をお願いしています（生徒によって身長や体重の差はありますが、フリーサイズのもので十分かと思います）。



胴回りや肩の調整のできるサロペットなどは重宝します▶

【生徒が準備するもの】

- 着替え（汚れてもよい服装持参しますが、作業着、長靴、軍手等、各受入家庭で予定している作業内容に沿ってご準備をお願いしています）。
- タオルや洗面用具などの宿泊用具（生徒が宿泊する寝室、寝具等をご準備ください）
- △冬季の受入れの場合防寒ウェア上下(防寒対策にスキーウェアを生徒へレンタル)

受け入れ時のポイント

迎え入れは初めが肝心！

●自己紹介で距離をぐっと縮めましょう

まず受入先および生徒からも自己紹介をさせましょう。生徒の名前や自分の呼び方、家族の呼び方などを決めましょう。呼び方はニックネームなどにすると、生徒との距離がぐっと縮まります。また、名前は生徒もなかなか覚えられないこともありますので、初日だけはガムテープ等にマジックで名前を書いて服に貼り名札などにして呼び合うのもひとつの方法です。尚、落ち着いた頃に、体調の確認や常備薬、アレルギー等の確認もあらためてしておきましょう。

※送迎する車の中でも自己紹介や地域の話題などをすることで、生徒との距離を縮める機会になります（生徒との話題例：学校でのクラブ活動、得意科目、趣味、休みの過ごし方、農業体験についてなど）



お互い名前呼び合うと
親近感が湧き、お互いの
距離を近づけられる。

白のガムテープなどで名
前を書いてもらうといい。



●滞在中の部屋や生活する場所（家・作業施設等）の案内

滞在する部屋やトイレやお風呂の場所など、かんたんでよいので案内しましょう。また、荷物を一度整理したり、疲れている生徒もいる場合もあるので、一度、身の回りのものを落ち着かせてから案内したりするのもいいでしょう。

●滞在中の生活の仕方（スケジュール）や家庭のルールの確認
生徒は、普段の生活と違う環境での生活となりますので、それぞれの農林漁業家さんの一日の仕事の流れや滞在中どんなスケジュール（就寝・起床時間、食事の時間、お風呂の時間など）で生活しているかを伝えてあげましょう（紙に書いて張り出しておくのもひとつです）。また、各家庭のルールや、作業のルールなどもしっかり伝えましょう。生徒等をお客さん扱いせず、叱るべきところはきちんと叱るなど、生徒等の行動に過度に干渉することなく、しかしそれと同時に常に行動を見守ってあげてください。

体験活動のポイント

作業体験ではなく **生活体験** という気持ちで

実際に受け入れにあたって「何をさせよう？」と迷う方も多いのではないのでしょうか？しかし、慣れない体験の準備はかえって受入側も負担になることもあるためみなさんがその日そのとき、普段されている作業をいっしょに体験してもらうのがイチバンです。お客さま扱いではなく、家族の一員、親戚の子が遊びに来たという意識で迎えてあげるのがイチバンのおもてなしとなります。個々の経営形態や作業内容により、体験内容は当然異なります。ふだんの作業といっても、なぜいまこの作業をしているのかなど、一言説明するだけでも体験が円滑に進みます。また食事の準備や家族団らん、布団のあげさげや掃除など、普段の生活をいっしょに体験する「**共同生活体験**」としてお願いしています。

<作業例>

農林水産業等の勉強は普段おこなっていない普通の中高校生です。例えば農家さんであれば、お米や野菜の畑の案内や草取り、酪農家さんであれば搾乳の様子の見学や仔牛の哺乳、牛に触れるだけでも体験です。用具小屋の掃除や機械等の手入れ、普段できない場所の片づけのほか、大型トラクターの試乗や機械の説明なども子どもたちにとってはすべてはじめての体験です。また作業の楽しさや苦労話、冬の生活の話などといった自分の仕事や作業以外の農山漁村の生活体験でもOK。関連施設の見学や空いた時間で地域の観光スポットめぐり、まっすぐな道での記念撮影、広大な敷地を散歩、昼寝など、生徒にとってはすべてがはじめての体験です。自分の仕事や地域の魅力を伝える時間帯として活用ください。





出荷作業



まき割り



ブラッシング



作業車の試乗



ピザづくり



そば名人とそば打ち



漁業網の仕掛けの話



関連施設の見学



まっすぐな道で記念撮影



地元資料館の見学



雪だるまづくり



畑をスノーモービル体験



みんなで夜の花火



ショベルカーで散歩



除雪作業車の見学

体験活動時の注意点

生徒は慣れない環境での作業となるので、危険場所の回避や体調など考慮しながら受け入れをお願いします。

●体験における危険回避

生徒等に対して、体験場所周辺の危険箇所や用具等の安全な使用方法、また危険行為などを事前に説明し、十分理解させた上で体験させましょう。

自然環境 の危険	気象	気温変動、大雨、河川の増水、強風、落雷など
	地形	山崩れ、落石、危険な斜面など
	動植物	家畜、ペット、ハチ、毒ヘビ、ケムシ、ウルシなど
	水	水深、急流、潮流など
身体的な 危険	病気	伝染性病原体や寄生性病原体による疾病、食中毒、その他の疾病
	怪我	滑る、転ぶ、ぶつかる、落ちるなど
人為的な 危険	対人	児童・生徒どうしの喧嘩
	対物	刃物や火、道具の使い方のミス、交通事故
	主催者	指導者の過失、無理な計画、技術不足の指導者による事故

●生徒の体力の確認

慣れない環境にいと調子を崩しやすいので、生徒の体調にあわせた体験をさせてください。もし、生徒等の体調が悪く又は、体力がないと判断し、体験への参加が困難であると認められる場合は、生徒等に十分説明して体験を中止し、他の体験に切り替えたり休ませたりなどしましょう。

●緊急時の準備

具合が悪くなった場合に備えて最低限の装備を準備しておきましょう。尚、服用薬の投薬については、薬成分においてアレルギー等をひきおこす場合がありますので事前に引率の先生や保護者の確認を得てから行いましょう。

※緊急連絡先について別途受入地域が決めている連絡体制にて連絡しましょう。

- ・救急セット：三角巾、消毒液、包帯、脱脂綿、トゲ抜きなど
- ・内服薬各種：下痢止め、鎮痛剤、抗アレルギー剤など
- ・通信機器：携帯電話、無線機など

食事について

滞在中の食事についても「何を食べさせよう？」と迷う方も多いのではないのでしょうか？食事についても、普段、みなさんが食べているものをいっしょに食べることがイチバンです。

しかし、お母さんの負担が大きくなると考える方ももちろん多いかもしれませんが、いっしょに食事の準備をおこなうことも体験活動のひとつとなります。普段子どもたちにとってあたりまえに準備されている食事がどのような食材でどのように調理され、わたしたちの身体をつくっているか考えることができます。男子・女子関係なく包丁を持つこと、調理すること自体、体験で食育にもつながります。

メニューとして、カレーライスやシチュー、ジンギスカンやちゃんちゃん焼きなど、負担にならない範囲で、受入農家さんといっしょにおこなう「**共同調理**」を基本に、準備やお手伝い、片付けなどいっしょにおこなっていただければと思います。



食事における注意点

衛生管理、食物アレルギーなど考慮をお願いします。

●共同調理（生徒に手をかけさせてあげましょう）

生徒等を含め、お客様に食事を提供する業務を行う場合には、食品衛生の適用を受け、「飲食店営業」の許可を受ける必要がありますが、今回の民泊体験においては学校教育活動の一環となりますので、食事は生徒等に指導しながら一緒に作る「共同調理」を原則でお願いしております。生徒にも一部でもいいので手をかけさせて、いっしょに食事の準備をすることも体験となります。

●消毒や調理前の手洗いをしましょう

調理の前には必ず石鹸を用いて手洗いを徹底するようにしましょう。生徒等にも手洗いを徹底させるようにしましょう。また、使用する食器も定期的に消毒するなどして衛生管理に留意しましょう。

●食材の適切な管理と加熱処理の徹底

食事は十分に加熱調理したものを中心とし、刺身などの生ものについては、食材の品質管理に十分注意しましょう。使用する食材の管理については冷蔵、冷凍に十分注意し、日数が経って質が劣化しているものは使用しないように注意しましょう。

<食中毒予防の3原則>

1. 食中毒の原因菌・ウイルスをつけない。
 - ・食品や手、調理器具はしっかり洗う。
 - ・食品は包んで保存する（ラップをかける等）
2. 食中毒の原因菌を増やさない。
 - ・室内に放置せず冷蔵庫に保存する（温度管理）
 - ・作った料理は早めに食べる
3. 食中毒の原因菌・ウイルスを消滅させる。
 - ・食品内部まで十分に加熱する。
 - ・調理器具は熱湯や漂白剤などで、こまめに消毒する

●食べもののアレルギーへの対応

生徒の中には食物アレルギーを持っている生徒もいるので、食材の選定には気をつけましょう。尚、事前に受け入れる生徒等の食物アレルギーの有無および情報を事前にご案内いたします。

※厚生労働省は、下記のとおり、アレルギー表示が必要な「特定原材料」を7品目選定し、表示の義務化を行っています。また、「特定原材料に準ずる物」として、18品目の表示を奨励しています

特定原材料	卵、乳、小麦、そば、ピーナッツ、エビ、カニ
特定原材料に準じるもの	魚介類：アワビ、イカ、イクラ、サケ、サバ 肉 類：牛肉、鶏肉、豚肉 果実類：オレンジ、キウイフルーツ、クルミ、モモ、リンゴ、バナナ その他：大豆、マツタケ、ヤマイモ、ゼラチン

そのほか滞在中のポイント

常に生徒への目配りを！

受け入れ側も不安ですが、まだ10代の生徒にとってはもっと不安です。

●生徒とのコミュニケーション

体験活動の休憩時間や、夕食後には団らんや語りの時間を設けるなど、コミュニケーションを図る時間をつくってください。また、多感な時期を迎えつつあることも考慮し、必要に応じて同性同士での相談が可能となるようにすることもご配慮ください。また夜間においては、生徒等の自由行動に気をつけて、目の届く範囲内で行動させるように注意しましょう。

●生徒への注意喚起

生徒は初日は緊張していても、2日目以降は慣れてきて、その分、気のゆるみから事故が起こりやすくなりますので、特に滞在期間の中盤から後半にかけては、生徒等に注意喚起をするなどして、一定の緊張感を保つように心がけましょう。

●喫煙・飲酒について

生徒等の目の前では、喫煙は出来るだけ避け節度ある飲酒をお願いしています。また、生徒等の誤飲を避けるため、たばこや酒類の管理に気をつけてください。滞在中は原則お酒を控えていただければと思います。

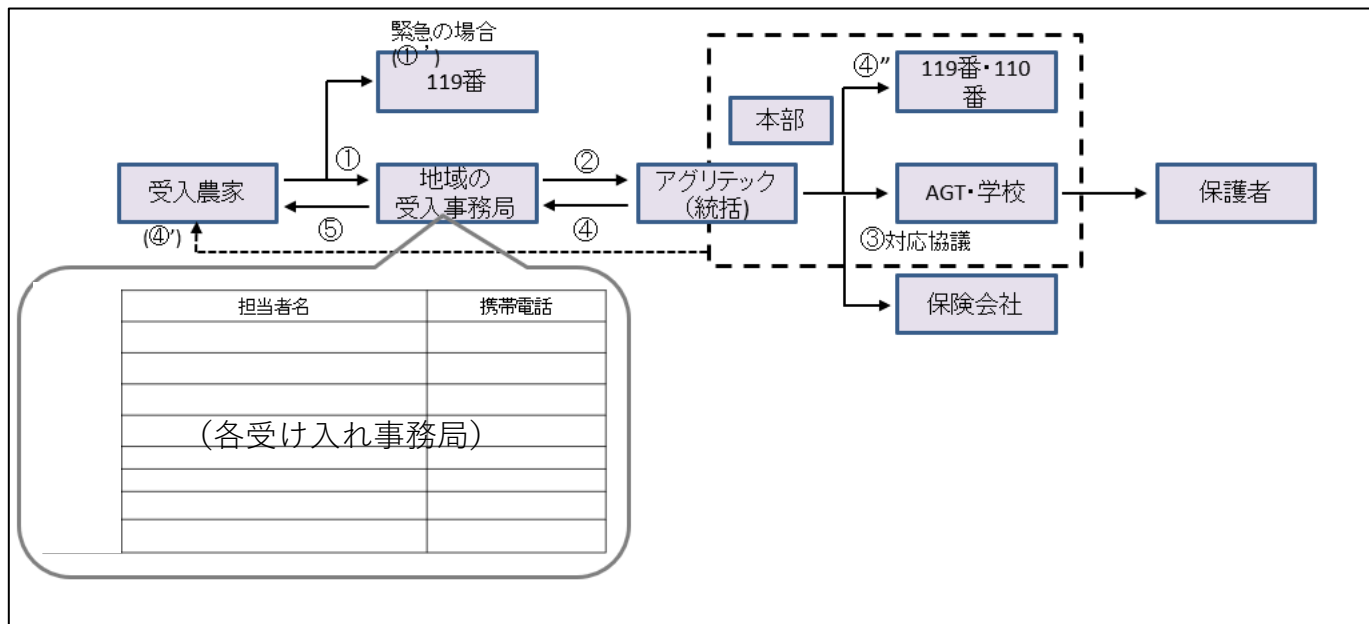
●火災対策について

- ・ライターなど生徒の手の届かないところに保管しましょう。
- ・ストーブ等暖房機器など、生徒等のいたずらや不燃による一酸化中毒に注意しましょう。
- ・コンロを使用する際は火の取り扱いを適度に管理しましょう。
- ・火災が発生した時のために、消火器を設置しておきましょう（また、住宅用火災警報器はすべての住宅で設置しなければならないことになっています）。
- ・火災発生時は「火事だー！」と大声で生徒等や周辺の者に知らせ、消防署に通報することともに、状況に応じて、初期消火や避難誘導に努めましょう。

緊急連絡体制

生徒は初めて農山漁村での生活で作物や土を見たり、触ったりする人が多く、受け入れ側が危険に思っていなくとも、危険になりうる場合が多々あります。周囲を見渡し受け入れの際に点検をし、万全の安全対策を各受入先のみなさまでお願いいたします。十分な事故防止策をとっていても、事故が発生することもあります。非常時を想定した確認を日ごろから心がけるようにしましょう。

事故が発生した際、受入先等は、直ちに地域受入事務局等に連絡し、「いつ、どこで、誰が、どうした」という事故状況を的確に報告しましょう。自己解決せず、まずは緊急時の体制に従い、状況把握と迅速な対応をこころがけましょう。



- ① 受入先さんより地域の受入事務局担当者へ連絡
(①緊急を要する場合は農家さんより119番)
 - ② 連絡を受けた受入事務局担当者より受入本部（アグリテック担当者）へ連絡
 - ③ 本部（旅行会社・引率者・アグリテック）にて対応を協議
 - ④ 本部での協議内容を受入事務局担当者へ連絡
(④緊急を要する場合は本部より直接農家さんへ連絡)
(④"場合によって本部より119番・110番へ連絡)
 - ⑤ 地域受入事務局担当者より農家さんへ連絡
- ※同時に状況に応じて本部より生徒宿泊先（農家さん宅）へ引率者が向かい状況把握し119番や病院への搬送や、保護者、保険会社等へ連絡。

アグリテックでは万が一の場合に備え下記のような保険をかけております。緊急の場合速やかに事務局までご連絡ください。また、送迎中の事故においては、道路交通法に従いドライバーの責任になりますので、安全運転の上、任意保険等の加入をお願いしております。

This image shows a full page of white paper with horizontal grey ruling lines. The word "MEMO" is printed at the top left in a large, black, sans-serif font. Below it, there are approximately 28 evenly spaced horizontal lines extending across the width of the page.

< お問い合わせ >

有限
会社 **アグリテック**

〒071-1425 北海道上川郡東川町西町2丁目2-17

TEL/0166-82-0800 FAX/0166-82-3040

E-Mail : info@agtec.co.jp

URL : <http://www.agtec.co.jp>